

大分県内に被害を及ぼした津波（県内で観測した津波）

発生日月日	推定 マグニチュード	震源	津波による被害
684年11月29日 (天武13)	8 1 / 4	南海道沖	
1596年9月4日 (慶長元) 慶長豊後地震	7.0 ± 1 / 4	別府湾	別府湾で発生。大音響とともに海水が引いたのち大津波が来襲。大分付近の村はすべて流失。佐賀関では田畑60余町歩流失。
1605年2月3日 (慶長9) 慶長地震	7.9	室戸岬沖、 東海沖	房総から九州にいたる太平洋岸に押し寄せた。
1707年10月28日 (宝永4) 宝永地震	8.4	紀伊半島沖	伊豆半島から九州までの太平洋沿岸、大阪湾、播磨、伊予灘に来襲した。県内での津波の高さは佐伯市米水津の養福寺で11.5mと推定され、臼杵では南津留荒田川付近まで津波が到達したとの記録がある。
1769年8月29日 (明和6)	7.4	日向灘	臼杵で汐入田2,666歩、水死者2人、海水の上下が見られた。津波の高さは2 ~ 2.5mと推定される。
1854年12月24日 (安政元) 安政南海地震	8.4	紀伊半島沖	津波は伊豆半島から九州、サンフランシスコまで及んだ。被害は紀伊半島から四国がひどかった。県内での津波の高さは、佐伯で2mと推定される。
1941年11月19日 (昭和16)	7.2	日向灘	津波の高さは、津久見で35cm、佐伯では10cmであった。
1946年12月21日 (昭和21) 南海地震	8.0	紀伊半島沖	津波は房総半島から九州にいたる沿岸を襲った。県内での津波の高さは、別府で70cm、大分で80cm、大野川で40cm、臼杵で40cm、佐伯で1mであった。
1960年5月23日 (昭和35) チリ地震津波	9.5	チリ沖	津波の高さは、中津で40cm、鶴崎で134cmであった。
1961年2月27日 (昭和36)	7.0	日向灘	大分県では被害がなかった。津波の高さは、佐伯で10cm、蒲江で15cmを記録した。
1968年4月1日 (昭和43) 1968年日向灘地震	7.5	日向灘	愛媛、高知、大分、宮崎の各県で被害があった。津波の高さは、TP上では竹之浦で1.26m、蒲江で0.96mで、検潮記録による最大全振幅では大分（鶴ヶ崎）22cm、佐賀ノ関12cm、臼杵135cm、津久見62cm、佐伯65cm、蒲江240cmであった。
1969年4月21日 (昭和44)	6.5	日向灘	検潮記録によると津波の高さは、蒲江で15cmであった。
1970年7月26日 (昭和45)	6.7	日向灘	検潮記録によると津波の高さは、蒲江で38cm、佐伯で18cmであった。
1972年12月4日 (昭和47)	7.2	八丈島東方沖	津波の高さは、蒲江で18cmであった。
2010年2月27日 (平成22)	8.8	チリ中部沿岸	南米チリで大きな被害、日本では三陸沿岸の養殖施設に被害が発生したが、大分県内には被害はなかった。津波の高さは、別府港で41cm、大分で30cmであった。
2010年12月22日 (平成22)	7.4	父島近海	津波の高さは、佐伯市松浦で5cmであった。
2011年3月11日 (平成23) 2011年東北地方太平洋沖地震	9.0	三陸沖	東北地方から関東地方北部の太平洋側を中心に北海道から沖縄にかけての広い範囲で津波を観測、甚大な被害となった。大分県内では養殖施設8、定置網2、標識灯1の被害があった。津波の高さは、別府港で55cm、大分で42cm、佐伯市松浦で43cmであった。

検潮記録による最大全振幅